

平成 30 年度 地域文化学専攻・比較文化学専攻 学生派遣事業 研究成果レポート

星野 麗子

1. 事業実施の目的

- ①EAAA (East Asian Anthropological Association) での口頭発表。
- ② 短期調査の実施。

2. 実施場所

中国貴州省貴陽市、遵義市

3. 実施期日

平成 30 年 10 月 24 日 (水) から 10 月 31 日 (水)

4. 成果報告

●事業の概要

今回は、①と②の二つの内容を実施する計画であった。

- ①EAAA (East Asian Anthropological Association) での口頭発表。

報告者は、EAAA 大会組織執行委員会より出発直前に急遽、定員数超過による会議進行の問題などの理由で、延期になった知らせをうけた。会場場所の貴州師範大学で研究成果を発表し、研究者たちと意見交換することは、残念ながらできなかつた。このことについては、速やかに「計画変更承認届」を提出した。

- ②短期調査の実施。

貴州省は、報告者が主な調査地とする四川省と隣接し、少数民族を多く抱える地域である。貴州省には、苗 (ミヤオ) 族、布依 (ブイ) 族、侗 (トン) 族などが多く居住しているとされ、その文化的、社会的影響も強く、都市部には少数民族を展示、紹介した博物館がある【写真 1、2】。博物館での展示の内容、図書館や書店での文献資料の調査と共に、諸民族の歴史や共生の状況などに関する聞き取り調査を通して、政治的、経済的格差を含めた漢族文化の理解を更に深めることにした。尚、具体的な内容は、次の通りである。

【10 月 24 日 (水) ~27 日 (土)、29 日 (月) ~31 日 (水)】

i)、貴州省の文化・歴史に関する文献調査 (貴州省貴州師範大学図書館、新華書店、貴州省図書館)。

ii)、民族 (漢族や少数民族) に関する展示の調査 (貴州省博物館)。

iii)、貴陽市での諸民族の歴史と現状に関する聞き取り調査。

【10 月 28 日 (日)】

iv)、遵義市での諸民族の歴史と現状に関する聞き取り調査。地方博物館での展示の調査。

●本事業の実施によって得られた成果

得られた成果は以下の三つである。

I)、i) 文献調査により、漢族／少数民族の二つの区分の上で、記述が行われていたことが多く、報告者が調査対象とする客家に関する資料は、ほとんど見られなかった。しかし、地方志の中に 1 箇所、客家の記述を発見することができた [貴州省地方編纂委員会（編）『貴州省志 民族志（上）』貴州民族出版社、2002：1]。

II)、ii) 博物館調査から、漢族／少数民族の二つの区分の上で、漢族と共に様々な少数民族が並列して「民族」として紹介されていた。漢族に関する展示は極めて少なく、少数民族に関しては、貴州に居住する主な少数民族を中心に、視覚的特徴による差異化が強く見られた。興味深いのは、展示されている民族衣装や装飾品（首飾りや髪飾りなど）、儀礼や家の中での作業など、女性が深く関わる内容がその対象となっていたと共に【写真 3、4、5】、歌や踊りなどの無形文化の展示は少なく、有形の「もの」が大半を占めていた点である。中国の博物館における、視覚を通した展示の発信、影響力の一端が垣間見られた。



【写真 1：贵州省民族博物館。現在閉館（2018年10月25日撮影）】 【写真 2：贵州省博物館。（2018年10月25日撮影）】



【写真 3、4、5（左から）：贵州省博物館の中の展示の様子（2018年10月25日撮影）】

III)、iii) iv) の聞き取り調査では、遵義の人々は「黔西、黔東、黔南に少数民族が多い（黔は貴州の略称）」と話しており、貴陽の人々の話からも、「都市部に漢族が、周辺地域に少数民族が居住している」、といった認識を広く抱いていることが見えてきた。これらは、民族分布図と重なる点も多い[貴州省地方編纂委員会（編）『貴州省志 民族志（上）』貴州民族出版社、2002]。

貴陽市の都市部で出会った人の中には、自身が苗族でありながら苗語を話せない女性や、苗族の人の中で族譜を所有している、と話していた人もいた。また、出稼ぎ労働や仕事の関

係から、広東や上海に行ったことがある人にも数人出会った。貴州と、広東や上海、重慶、四川との関係を積極的に発信する人びとの様子から、地理的理由よりも、経済的理由の影響が強く「一種のあこがれ」や経済発展都市との関係を強く結びつこうとする、人々の志向性といった様子も見られた。

●本事業について

今回の助成金による短期調査の実施によって、報告者は今回、口頭発表はできなかったが、広い範囲での調査が可能となり、報告者が主とする調査地とは別の地域の文脈から漢族文化の理解を深めることができた。上記の内容は、全て短期で収集したデータであり、データの少なさや偏りといった問題点も考えられ、さらなる研究が必要となることは間違いない。しかし、今回の短期調査では、新たな発見や多角的視点も得られたと考えている。

本事業は、経済的負担の大きい学生にとって、貴重な研究活動であり、博士論文を執筆する上で、重要な機会でもあった。今後もこのような事業が継続されることを強く希望している。